NISSHIN oillio 日清オイリオ
"植物のチカラ"

NEWS RELEASE

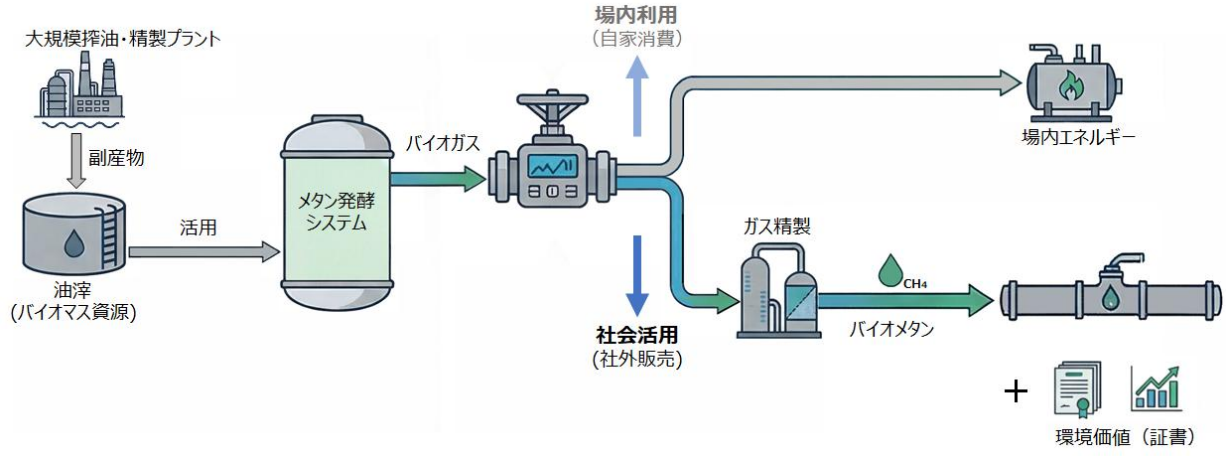
≪報道関係資料≫

（配布先）農政クラブ／東商記者クラブ／環境省記者クラブ
2026 年 11 月 4 日
日清オイリオグループ株式会社

植物油製造副産物から再生可能エネルギーを創出する技術開発が NEDO 公募事業に採択

日清オイリオグループ株式会社（社長：久野　貴久）は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募する「バイオものづくり革命推進事業」に、「未利用油糧資源を用いた油脂特化型メタン発酵技術の開発」を提案し、このたび実施事業として採択されました。

本事業では、植物油製造工程で発生する副産物である油滓（ゆさい）を有効活用し、バイオメタンを生産する技術の開発・実証を進めます。



画像ダウンロード

2050 年のカーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーの導入拡大と未利用バイオマスの高度利用が求められています。本事業で使用する油滓は植物油の精製過程で発生する、食糧と競合しないバイオマス資源です。また、均質であり、植物油の生産拠点に大量に集積しているというバイオマス資源としての優位性を持っています。

当社は油滓の有効活用に向け、油滓から天然ガスの主成分であるメタンを生成する「メタン発酵」の研究開発を進めてきました。本技術は油滓に特化した「メタン発酵」であり、原料を高効率でメタンに転換できるという特徴があります。また、生成したバイオメタンは油糧作物が大気から吸収した CO_2 を炭素源とするため、再生可能エネルギーとして都市ガスと混合し、地域で利用されるほか、当社の生産拠点におけるエネルギーとしての活用も期待されています。

今回 NEDO に採択された事業では、株式会社バイオガスラボ、京都大学、金沢大学、公立鳥取環境大学との産学連携体制のもと研究開発を進めます。産業利用が可能な規模へのスケールアップ、発生したバイオメタンの精製技術の確立など、本技術を社会実装するための技術的な課題の克服に取り組みます。

植物資源を事業のベースとする当社グループにとって、地球環境や資源の保全は、事業の持続性そのものです。当社グループは 2050 年のカーボンニュートラルを目指しており、その実現に向けて様々な脱炭素化施策を継続的に実施しています。本事業を通じて植物油製造工程で発生する副産物をエネルギー資源として有効活用する新たなモデルを構築し、植物由来の炭素を活用した循環型社会の実現を目指します。

リリースに関するお問合せ先　日清オイリオグループ株式会社　広報部
TEL：03-3206-5109　〒104-8285　東京都中央区新川一丁目 23 番 1 号